

3学期始業式を迎えて

学ぶことは「探究」することである

冬休みとしては少し長めの休暇でした。成果を得ることはできたでしょうか。また、3年生でこれから進路に臨む人は最後の最後まで頑張ってください。先生方は最後まで支援し続けます。

さて、2学期の終業式では、学び続けることの意義を話しました。今日は、探究することについてお話します。探究とは、探し求めると書きます。ある辞書によると、物事の真相やあり方を深く考えて、筋道をたどって明らかにすることです。疑問に思ったことや課題意識のあることを解決していく過程とも理解できます。

たとえば、豊岡市出石町袴狭（はかざ）遺跡から少し大きめの魚（鮭か）や船の形を彫った（デザインした）板が見つかりました。小刀か彫刻刀で削ったような絵で、線刻画と言われています。しかし、なんで海や大きな川のない袴狭からそんなものが出土するのでしょうか？こうしたことに疑問をもつことが探究の始まりです。そして大雑把なことから調べ始めます。まず、袴狭遺跡は弥生から古墳時代のものです。そして、そのころの豊岡から出石地域の地質や地形はどうなっていたかという、円山川や出石川の流れが定まらず蛇行し、そのため川や湖沼との区別がつきにくいような低湿地が広がっていたと考えられます。ちなみに縄文時代の遺跡は豊岡盆地（低湿地）にはありません。縄文人は広葉樹の森に住み、鹿や猪を追いかけどんぐりを食べる生活をしていました。だから、低湿地には住みません。一般に、米を作るようになり徐々に低地に降りてきますが、円山川下流域の低地はぬかるみがひどく、米作りのできる状態ではありませんでした。逆にそういう状態だから、線刻画のように、大きめの魚が泳ぎ、船が通っていたということでしょう。

さて、その線刻画です。この船は準構造船といって、海でも漕げる船ということです。しかも、線刻画には何艘も描かれています。ということは、この船がまとまって日本海に出て行ったと言うことでしょうか。今から17年前にこの線刻画が見つかったときは、全国紙の新聞の第一面を大きく飾り、その中には「船団を組んで朝鮮半島まで行った」と書いたものもありました。皆さんよく知っているように、出石神社が祀っているのはアメノヒボコという朝鮮半島から来た新羅の国の王子です。アメノヒボコが線刻画のように船団を組んで朝鮮半島からやって来たとしたら、なんとロマンチックなことでしょうか。

さて、2000年近く前のことですから、アメノヒボコという名の方は実在しなかったかも分かりません。しかし、古事記、日本書紀、播磨風土記など古代の文献に多く記載があり、そのような人がいたのは間違いのないでしょう。「そのような人」とは、朝鮮半島からの渡来人で、先進的な技術をもたらした人ということです。その技術の中で最も影響のあったのが、鉄器だと言われています。鉄の鍬は、田畑を深く耕すことができます。また、工事にも鉄器が使えます。特に、低湿地に水路を開き、よどんだ悪水を下流に流すことができます。川の護岸工事もできます。おかげで、豊岡から出石にかけての低湿地を肥沃な水田に変えることができたのです。アメノヒボコは但馬開発の神様と言うことで、但馬一宮の出石神社のご祭神となるわけです。

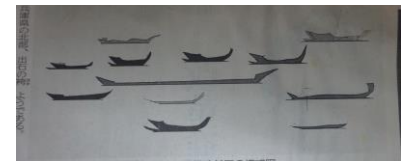
袴狭遺跡出土の線刻画についての疑問から始まり、但馬の地形や地質、当時の人の生活や技術、はては朝鮮半島などとの国際関係といったように広がり、それが最初の疑問の解決に向かっていきました。探究は「疑問（課題設定）→調べる→解決→新たな疑問」の繰り返しなのです。

ところで、最近「できる」ということと「わかる」ことの違いが議論になります。できるとは、問題が解けて点数が取れることです。数学の因数分解が解けたり、日本史の穴埋め問題ができるようなことです。しかし、因数分解の公式にあてはめただけで、条件反射のように回答しただけでは、本当にわかっていると言えるのでしょうか。どうしてそういう公式になるのか。解を出すための道筋を理解できていることが大切です。日本史の教科書を暗記したら、穴埋め問題はかなりできます。しかし、歴史の筋道を質問すると、根本的なことがわかっていない場合があります。知識や技術を活用（応用）するには、本当のところをわかっていないとできません。すでにAO入試や推薦入試では活用できるかどうか問われていますし、これからの教科書や入試はそういうところが重視されます。さらに、先ほど例に挙げたような課題解決的な探求活動が、本当に将来役に立つ学び方として求められているのです。皆さんが2月2日にひぼこホールで発表する、文理探究の学びや職業調べも立派な探究です。本来、学ぶと言うことは、与えられた知識を覚えるだけでなく、分からないことを探究していくことだと理解し、自ら主体的に取り組んで欲しいと思います。

3学期は短いですが学年の「しめ」です。自分のやりたいこと、やらねばならぬことをしっかり意識してやってください。



上は2000/5/31神戸新聞第一面。下は準構造船団の模式図。こうして航海したのか。



12/8 平田オリザさんのコミュニケーション講座。握った手の上を歩いて渡る。協調と協働が必要。